

食物発酵食品による生殖医療への適応例について

(代替医療的観点より、前回発表からの追加所見含む)

小濱 隆文¹⁾

1) 恵寿総合病院 産婦人科

【目的】

卵巣性卵巣機能不全患者（早発閉経、閉経前期卵巣機能不全）の改善、体外受精患者の採卵率の改善、精子の質向上を目的とし、強力な抗酸化作用を有する食物発酵食品（万田酵素）を投与し、病態、状態の改善を試みた。なお、今回の発表は、前回発表からの追加所見含むものである。

【方法】

<症例1> 8歳未産婦。初潮以来、大きな変化なし）、20歳ころより月経の消失認める。27再で結婚、挙児希望にて当科受診。初診時、LH 21.1 (mIU/ml)、FSH 44.4 (mIU/ml)、testosterone 19.8 (ng/ml)、P4 ≤ 0.1 (ng/ml)、E2 ≤ 5.0 (pg/ml)、抗核抗体陰性、その後EP製剤投与による月経発来させた後、2か月間様子見るも変化なく、早発閉経と診断。以後、EP製剤投与による月経発来、スプレピュア投与開始、rHMG300IUx21日間投与、以上3クール施行するも変化なし。その後、EP製剤投与による月経発来後、万田酵素5g/日投与開始、継続摂取させた。(成績) 投与3か月後に自然月経発来認め、月経10日目でLH8.7(mIU/ml)、FSH17.4(mIU/ml)、P4 0.2(ng/ml)、E2 12pg/mlと改善を認めた（以上前回発表）。その後、クロミッド併用、自然排卵を認めるに至った。

<症例2> 40歳、41歳、44歳の不妊体・外受精患者に対し万田酵素5g/日投与開始、いずれの患者においても、採卵数の増加、卵・の質の上昇が認められた。

<症例3> 乏精子症の患者5名に対し万田酵素5g/日投与開始、内3名が投与2週間後、1名が4週間後の精子自動性指数の改善が認められた。

【結果】

万田酵素投与により、早発閉経、体外受精時の採卵状態、精子状態に改善傾向が認められた。

【結論】

万田酵素は、卵巣性卵巣機能不全患者（早発閉経、閉経前期卵巣機能不全）、体外受精時の卵巣機能、および精子状態を改善させる可能性がある。なお本症例は、発表に際して体外受精時の倫理委員会で、倫理的に問題ないことを確認した。